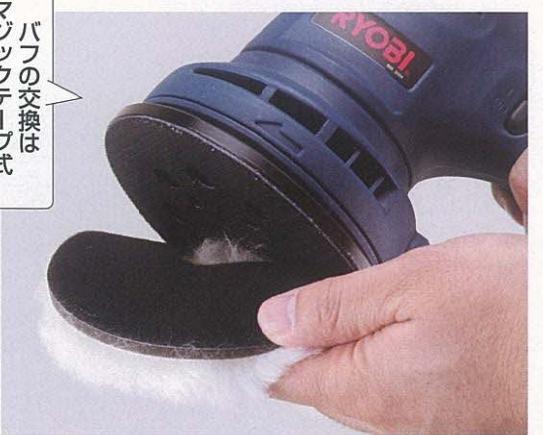




誰でもDIY作業で
研磨ができる

マジックテープ式
バフの交換は



一般的なポリッシャー同様に、バフはマジックテープで着脱できる。
手軽に脱着することができる。

Ripicar 研磨革命 脱!オーロラセット

価格: 4万5150円
⑨リピカ ☎ 0847-67-5480
http://www.ripica.com/



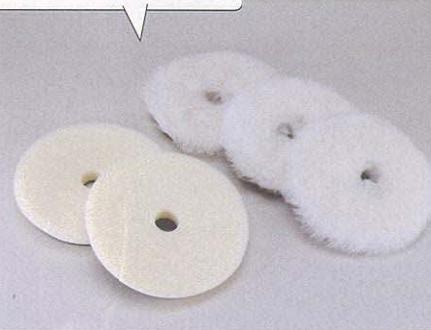
バフにコンパウンドをつけて作業開始



洗車+マスキングで前準備



付属するバフは5枚



50cm四方ごとを目安置いていく。ポリッシャーは押し付けず手で支える程度に、しっかりとバフを回転させることができ。ボディへ当たって注意だ。

研磨作業をはじめる前にボディをしっかりと洗い(ゴミやホコリが残っていると傷の原因になる)、樹脂部分などをマスキングしておく。

セッテに含まれているのは、ウールバフ3枚とウレタンバフ2枚。頻繁に使うものではないから、これだけあれば追加購入するには当分先でよさそう。

最大のポイントは、ポリッシャーからバフ、そして研磨剤まで必要となるアイテムすべてをパッケージ化したこと。これにより、バフや研磨剤の選択に悩む必要がなくなり、マッチングのミスも防ぐことができる。電動ポリッシャーも、軽量で扱いやすいものを選んで、さらに改良を加えている。また研磨剤は、過剰研磨の心配がない超微粒子タイプをセットしているのも安心だ。名前の通り、「オーロラ」と呼ばれる塗装表面の輝きの乱れも手軽に消し去ることができるようになる。このキットの登場により、電動ポリッシャーはプロだけのアイテムという定説は過去のものになってしまった。こだわり派なら、もつていて当然の電動ポリッシャーキット……それが、これから的新常識である。



スゲモノ・ツール最前线 ツール導入 「一点豪華主義のA to Z」

► ポリッシャー

電動ポリッシャーを
所有する

専用のバフは2種類付属



2種類のコンパウンドを
セット

電動ポリッシャー
RYOBI製
セット



500ml入りの初期鏡面コンパウンドと
200ml入りの仕上げ鏡面コンパウンドを1
本ずつセット。水性塗料でも安心して研磨
でき、バフとのマッチングを考えてセット
として開発したことで作業時間も従来の半
分程度で済むのがうれしい。

ウールバフ(左)とウレタンバフ(右)がセットされている。基本的な作業は、ウールバフによる初期仕上げだけOK。黒系や艶などもっと表面を美しく仕上げたいときだけ、ウレタンバフにより鏡面仕上げをおこなう。

セットに含まれる電動ポリッシャーは、電動工具のトップブランドであるRYOBI製。しかも「研磨革命 脱!オーロラセット」用にリファインを加えた専用品だ。ヘッドに改良を施し、使い慣れない人でも作業が行いやすいうように配慮している。軽さもポイントだ。

しかし憧れても、電動ポリッシャーについて知れば知るほど、現実はそう甘くはないといふことに気がつくだろう。バフはどれを選べばいいか? コンパウンドはどれを使うべきか? それらの選択やマッチングを間違えれば、塗装をキレイにするどころかかえって塗装面を荒らしてしまうという結果が待ち構えている。作業にもコストが必要だ。リスクが大きいのだ。だからこそ、素人には手が出しにくいアイテムだった。そこで立ち上がったのが、「コーティングカーシャンパー・リピカ」でおなじみのリピカ。従来の電動ポリッシャーによる研磨作業では常識だった「技術と時間」を不要とし、「楽に・早く、きれいに上がる」という夢のような電動ポリッシャーを発売したのだ。これはつまり、プロではない一般的なユーザーでも安心して使える電動ポリッシャー・キットなのである。

が待ち構えている。作業にもコストが必要だ。リスクが大きいのだ。だからこそ、素人には手が出しにくいアイテムだった。そこで立ち上がりたのが、「コーティングカーシャンパー・リピカ」でおなじみのリピカ。従来の電動ポリッシャーによる研磨作業では常識だった「技術と時間」を不要とし、「楽に・早く、きれいに上がる」という夢のような電動ポリッシャーを発売したのだ。これはつまり、プロではない一般的なユーザーでも安心して使える電動ポリッシャー・キットなのである。

しかし憧れても、電動ポリッシャーについて知れば知るほど、現実はそう甘くはないといふことに気がつくだろう。バフはどれを選べばいいか? コンパウンドはどれを使うべきか? それらの選択やマッチングを間違えれば、塗装をキレイにするどころかかえって塗装面を荒らしてしまうという結果が待ち構えている。作業にもコストが必要だ。リスクが大きいのだ。だからこそ、素人には手が出しにくいアイテムだった。そこで立ち上がりたのが、「コーティングカーシャンパー・リピカ」でおなじみのリピカ。従来の電動ポリッシャーによる研磨作業では常識だった「技術と時間」を不要とし、「楽に・早く、きれいに上がる」という夢のような電動ポリッシャーを発売したのだ。これはつまり、プロではない一般的なユーザーでも安心して使える電動ポリッシャー・キットなのである。

しかし憧れても、電動ポリッシャーについて知れば知るほど、現実はそう甘くはないといふことに気がつくだろう。バフはどれを選べばいいか? コンパウンドはどれを使うべきか? それらの選択やマッチングを間違えれば、塗装をキレイにするどころかかえって塗装面を荒らしてしまうという結果が待ち構えている。作業にもコストが必要だ。リスクが大きいのだ。だからこそ、素人には手が出しにくいアイテムだった。そこで立ち上がりたのが、「コーティングカーシャンパー・リピカ」でおなじみのリピカ。従来の電動ポリッシャーによる研磨作業では常識だった「技術と時間」を不要とし、「楽に・早く、きれいに上がる」という夢のような電動ポリッシャーを発売したのだ。これはつまり、プロではない一般的なユーザーでも安心して使える電動ポリッシャー・キットなのである。